

風雨観測データカード回収・編集処理システム

操作説明書

OT-711

(KPC-63)

大田商事株式会社

目 次	頁
システム概略	2
1 システムの構成	3
2 システムの使用環境	4
3 システムのインストール方法	4
4 システムの起動方法	5
5 システムの終了方法	5
6 システムの機能詳細	6
6-1 システムの管理機能	
6-2 システムのデータ回収機能	
6-3 システムのデータ編集機能	
6-4 システムのグラフ表示機能	
6-5 システムの帳票機能	
6-6 システムの基本的な操作方法	
7 システムの操作方法	9
7-1 システムの終了処理	9
7-2 環境設定処理	9
7-4 データ回収処理	11
7-3 データ一覧処理	14
7-5 グラフ処理	16
7-6 帳票印刷処理	19
8 データ収録ファイル	23

風雨観測データカード回収・編集処理システム

操作説明書(Ver 1.0)

システム概略

本システムは、弊社で発売しているLoggerSystem風向風速・雨量(KPC-63)により収録された風向風速・雨量データを、2種類の方法で回収します。回収したデータは、自動編集・収録し、日表、月表、の作表、日・旬・月・年間のグラフを作図・印刷します。システムで管理できる地点数は最大99地点です。

ロガーデータの回収方法は

- 1) 現地に設置されたロガーにフラッシュ・カードをセットし、手動で蓄積されたデータを回収する。
回収フラッシュ・カードを持ち帰り、事務所 PC で編集処理する。
- 2) 現地に設置されたロガーと携帯電話用モバイルカード、携帯電話を接続し、事務所 PC から公衆回線用モデムを介して回線を接続後、データを通信・回収する。

2種類を用意しています。回収例は図1に、システム運用時の画面を図2に示します。

本システムは Windows OS に対応しています。以下順にシステムの機能、操作方法を述べます。

図 1 水位雨量データ回収・編集処理システムの回収接続例

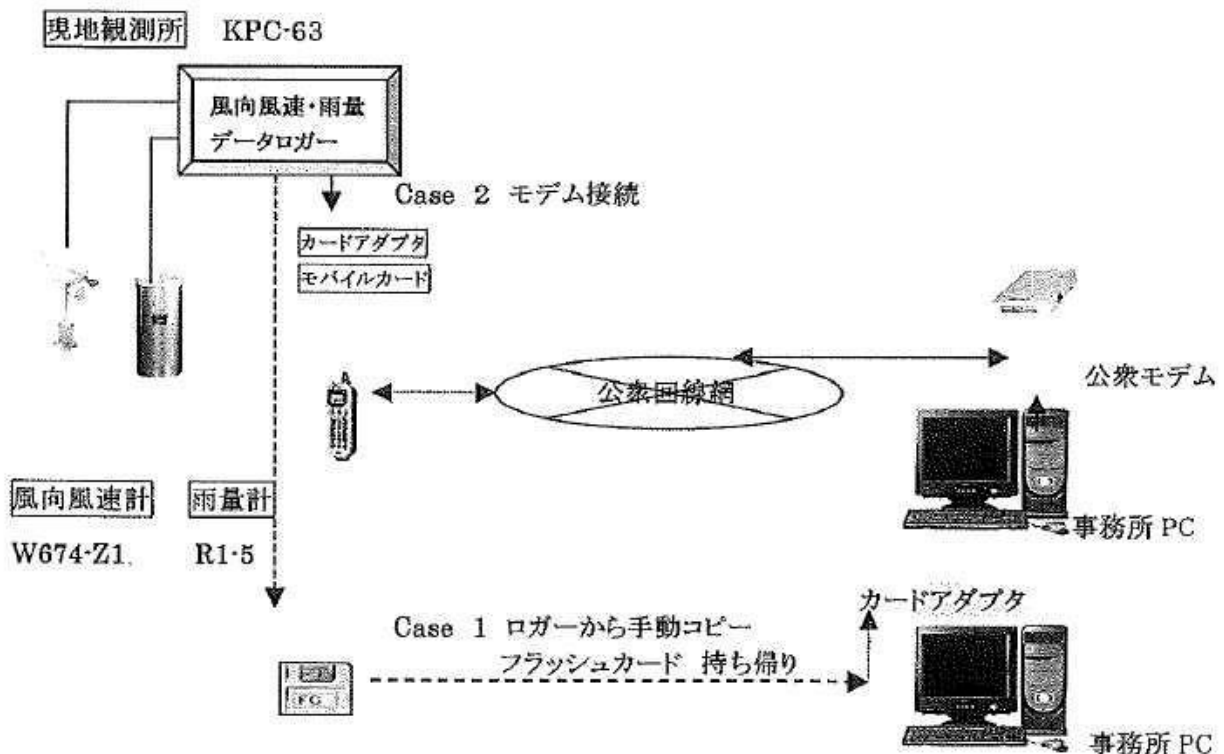


図2 風雨観測データカード回収・編集処理システムの運用画面例



1 システムの構成

- ① フラッシュカード持ち帰り回収
 - データロガーKPC-63 1台
 - 同上用単三電池 6本
 - パーソナルコンピューター(事務所設置)
(フラッシュカードアダプタ付き) 1台
- ② モデム接続回収
 - データロガーKPC-62 1台
 - 同上用電源アダプタ 1台
 - 携帯電話 1台
 - 携帯電話用モバイルカード 1枚
 - 同上カードアダプタ 1台
 - RS-232Cケーブル(ストレートケーブル) 1本
 - パーソナルコンピューター(事務所設置)
(内蔵公衆回線モデム付き) 1台
- アプリケーション CD 1枚

2 システムの使用環境

パーソナルコンピュータ	Windows98、Me、2000、XP OS 対応機種
ハードディスクの使用容量	ソフトウェア関連ファイル 約1MB
データ容量	最大300キロバイト/1ヶ月

3 システムのインストール方法

下記の操作方法の順にシステムのインストールを行って下さい。通常のWindows関連ソフトウェアと同様のインストール方法です。

①インストール用CDをドライブにセットし、インストールを開始して下さい。

②タスクバーのメニューから「ファイル名を指定して実行」を選択します。

③ 「ファイル名を指定して実行」ウィンドウの名前の項目に

「D: 〆風雨観測データ回収システム〆Setup. EXE」と入力し ボタンを

クリックして下さい。(D:はCD-ROMドライブとします。)

④ ファイルを初期化し、インストールを開始します。

⑤ インストールを開始します。よろしければ をクリックして下さい。

⑥ プログラムをフォルダーの C: 〆風雨観測データ回収システム にインストールします。



上記設定でよろしい場合、左記のセットアップボタンをクリックして下さい。ディレクトリを変更する場合は、ディレクトリ変更ボタンをクリックし、変更を実施して下さい。

⑦ セットアップ実行中、経過バーを表示します。

⑧ インストールを終了すると完了メッセージウインドウを表示します。

ボタンをクリックすると、インストールを終了します。

⑨ プログラムグループに風雨観測データ回収システムが登録されている事を確認して下さい。

4 システムの起動方法

回収システムを起動する場合、下記の作業手順で起動して下さい。

- ① PCの電源をONにして下さい。
- ② WindowsOS が起動されます。
- ③ WindowsのDiskTop画面が表示されます。

スタート→プログラム→風雨観測データ回収システムを選択すると、システムが起動され、図2の初期画面を表示します。

注意事項

持ち帰りフラッシュカードを編集する場合、そのカード入力用アダプタが必要です。

ラップトップPCの場合は、フラッシュカード用PCMCIAソケットが必要です。

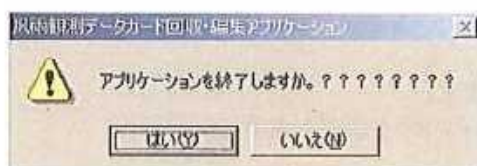
デスクトップPCの場合は、USB対応カードソケットが必要です。詳細については弊社にお問い合わせ下さい。

モデム接続する場合、PC内蔵モデムが無い場合は外付けモデムが必要です。又、ロガー用電源アダプタ(12V)も必要です。ロガーのメニュー入力操作により、モデム設定操作が必要です。詳しくは、ロガー操作説明書を参照して下さい。

5 システムの終了方法

図2の終了ボタンを選択すると、図3のシステム終了確認ウインドウを表示します。はいを選択すると、システムは終了します。

図3 システム終了確認例



Windowsの終了処理を実行して下さい。処理後、PCの電源を切って下さい。

6 システムの詳細機能

6-1 システムの管理機能

【地点別環境詳細設定登録】

観測地点別に観測地点名、接続方法(カード、モデム)、回収要素を設定します。

最大99地点まで登録が可能です。

モデム接続する場合、回線番号、使用デバイスも設定できます。

回収要素:風向風速・雨量、風向風速のみから選択

使用デバイス:OSにインストールされたデバイス一覧から選択

6-2 システムのデータ回収機能

【フラッシュカードデータ回収】

対照地点別に、観測現地にてロガーよりフラッシュカードに回収されたデータを編集・収録します。現地回収、本システムでの編集・収録は月単位で行います。

【10分値手動通信】

対照地点を選択後、ロガーとモデム接続し、ロガーデータを回収します。

回収開始日付、終了日付をセットし、その期間のローガーデータを回収します。

【最新瞬間値通信】

対照地点を選択後、ロガーとモデム接続し、毎秒ロガーより最新瞬間値を回収・表示します。

6-3 システムのデータ編集機能

【生データ一覧表示】

回収したデータを日単位で表示します。

【データ修正】

表示された観測時刻をクリックするとその時刻のデータを個別に修正できます。

本機能は、地点別に実行できます。

6-4 システムのグラフ表示機能

【データグラフ表示・印刷】

地点別、要素別に、日グラフ、旬グラフ、月グラフ、年グラフを表示・印刷できます。

いずれも画面表示後、確認の上印刷が可能です。

6-5 システムの帳票機能

【データ帳票表示・印刷】

地点別、要素別に、日表、月表を表示・印刷できます。

いずれも画面表示後、確認の上印刷が可能です。

6-6 システムの基本的な操作方法

システム基本的操作は Windows OS 操作に準じています。下記のボタン、ボックス等をマウスクリックする事により、明示された処理を実行します。各ウインドウのガイドに従い、操作して下さい。システム内で主に使用する操作機能を述べます。

コマンドボタン 画面上のボタンをマウス左シングルクリックすると、その処理を実行します。



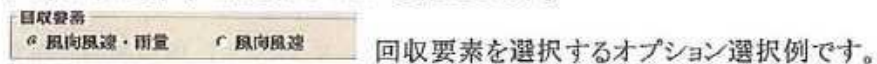
データ回収 例:データ回収ウインドウを表示します。

コンボボックス ボックス右の↓部をクリックすると、その処理の一覧を表示します。文字列部をマウス左シングルクリックすると、その処理を実行します。



処理地点選択コンボボックス例です。

オプションボタン 処理オプションを選択する機能です。処理文字列部をマウス左シングルクリックすると、その処理オプションを確定します。



回収要素を選択するオプション選択例です。

リストボックス ファイル名等の一覧を表示します。処理文字列部をマウス左シングルクリックすると、その項目の選択・確定します。



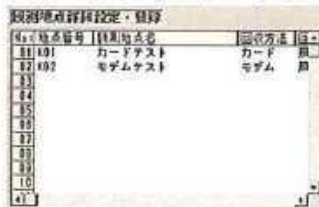
処理対象ファイル名を選択する例です。

テキストボックス テキストボックスをクリックし、ボックスにフォーカスすると文字列の入力ができます。



観測地点名を入力・修正する例です。

グリッド グリッドに選択する項目の一覧を表示します。グリッド処理文字列部をマウス左シングルクリックすると、選択が確定します。

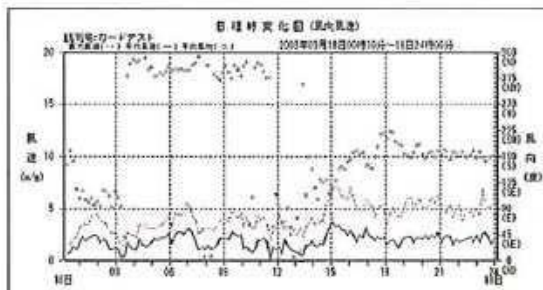


回収等の処理時に、対象地点を選択する例です。

カレンダー 回収日付を選択する際使用するカレンダーです、日付部をマウス左シングルクリックすると、日付が確定します。

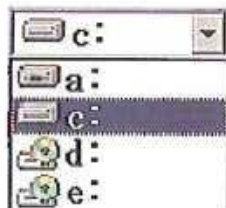


ピクチャーボックス グラフ、作表するボックスです。この画面をマウス左シングルクリックすると、このボックスに処理子ウインドウ(日付設定ウインドウ等)を表示します。



ドライブレリストボックス フラッシュカード等のドライブを設定を設定します。↓部をマウス左シングル

クリックすると、使用 PC ドライブ一覧を表示します。文字列部をマウス左シングルクリックすると、そのドライブの選択・確定します。



7 システムの操作方法

図4にシステム運用時の画面例を表示し、システム処理機能単位で操作方法を述べます。

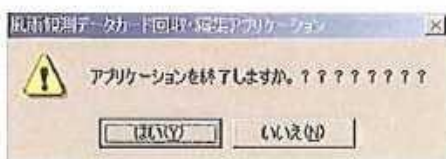
図4 システム運用時処理実行メニュー画面例



7-1 システム終了処理

図4の終了ボタンを選択すると、終了確認ウインドウを表示します。はいを選択すると、システムは終了します。

図5 終了確認ウインドウ例



7-2 環境設定処理

図4の環境設定ボタンを選択すると、環境設定ウインドウを表示します。

図6 環境設定ウインドウメニュー例



機能詳細

【詳細設定登録】 地点別に詳細環境設定値を設定・登録します。

図6で選択地点名グリッド部をクリックすると、図7、8の地点別詳細環境設定ウインドウを表示します。地点別に、観測地点名入力、接続方法、回収要素選択の設定が可能です。接続方法はフラッシュカード入力、モデム接続の2種類を用意しています。モデム接続の場合、ロガーに接続された回線の電話番号入力ができます。新規登録、修正登録する場合、図7、8の設定ボタンを選択し、設定・登録ボタンを選択すると、システムに登録・収録されます。

システムインストール直後では、グリッド部は空欄になっています。01部をクリックすると、詳細設定ウインドウを表示します。最大99地点分の環境設定が可能です。

図7 地点別フラッシュカード回収詳細環境設定例

詳細入力		強制終了	設定	元に戻す
サイトNo:	01			
地点番号	001			
観測地点名	カードテスト			
回収方法	<input type="radio"/> カード回収 <input checked="" type="radio"/> モデム通信回収			
回収要素	<input checked="" type="radio"/> 風向風速・雨量 <input type="radio"/> 風向風速			
収集ファイル名	Eyyyyyaa.TXT			
収集フォルダ名	D:\小松製作所V風雨回収モデムVDA1VPoint01			
備考欄				

図8 地点別モデム通信回収詳細環境設定例

詳細入力		強制終了	設定	元に戻す
サイトNo:	02			
地点番号	002			
観測地点名	モデムテスト			
回収方法	<input type="radio"/> カード回収 <input checked="" type="radio"/> モデム通信回収			
通信詳細設定	現地電話番号 03-3630-5231 使用モデムデバイス名 Conexant HCF V90 56K Data Fax PCI Modem			
回収要素	<input type="radio"/> 風向風速・雨量 <input checked="" type="radio"/> 風向風速			
収集ファイル名	Eyyyyyaa.TXT			
収集フォルダ名	D:\小松製作所V風雨回収モデムVDA1VPoint02			
備考欄				

7-3 データ回収処理

図4のデータ回収ボタンを選択すると、図9のデータ回収ウインドウを表示します。ロガーとのモデム通信、フラッシュカード回収の処理ができます。

図9 データ回収ウインドウメニュー例



機能詳細

【フラッシュカード回収】 PC にセットされたフラッシュカードデータを編集収録します。

【10分値データ手動通信回収】 PC に接続されたモデムを通してロガーと接続し10分値データを回収・収録します。

【最新瞬間値データ通信表示】 PC に接続されたモデムを通してロガーと接続し最新瞬間値データを回収・表示します。

図9でフラッシュカード回収ボタンを選択すると、図10のカード回収地点選択ウインドウを表示します。システムに登録されたフラッシュカード回収地点の一覧をグリッド表示します。

グリッド一覧に地点名が表示されない場合、7-2で新規にカード回収地点登録をして下さい。

回収する地点をクリックすると、選択地点欄にその地点名を表示します。同時に図11のウインドウを表示し、自動的にフラッシュカードドライブを検索し、カードに収録されたファイル一覧をリストボックスに表示します。フラッシュカードをセットしていない場合、その警告ウインドウを表示します。

ファイル名 KXX-yyymm.TXT は、地点番号-年月、TXT を意味します。

図10 データ回収地点選択ウインドウ例

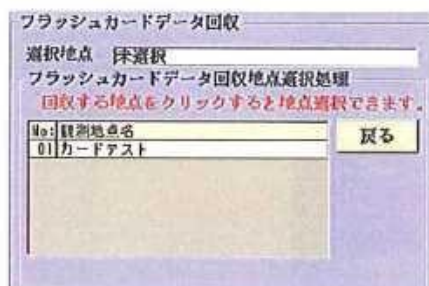


図11 データ回収回収年月ファイル選択ウインドウ例

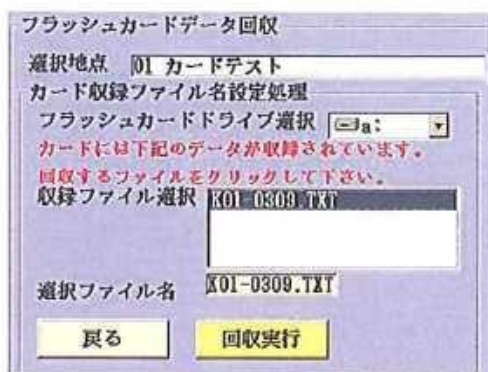


図11でファイルリストボックスでそのファイル名を選択し、編集実行ボタンを選択すると図12のフラッシュカード処理ウインドウを表示します。

カード先頭部のカード情報を入力し、その内容を表示します。

情報確認の上、編集実行ボタンを選択すると、カードからデータを入力し、編集・収録します。処理は月単位で実行します。収録期間を必ず確認して下さい。

戻るボタンを選択すると、図11に戻ります。

図12 フラッシュカード処理ウインドウ例

フラッシュカード情報収集・データ回収

地点名

カードに付けられた地点番号

回収可能開始日付

回収可能最終日付

処理状態

編集ファイル名

図9でモデム通信ボタンを選択すると、図13の地点選択ウインドウを表示します。システムに登録された通信回収地点の一覧をグリッド表示します。グリッド一覧に地点名が表示されない場合、7-2で新規に通信回収地点登録をして下さい。通信する地点をクリックすると、図14の回線接続処理ウインドウを表示します。

図13 モデム接続地点選択ウインドウ例

モデム通信データ回収

選択地点

モデム通信回収地点選択処理

回収する地点をクリックすると地点選択できます。

No:	観測地点名
02	モデムテスト

図14で回線接続ボタンを選択すると、通信回線接続します。接続まで約1分程度の時間を要します。接続すると、図15の通信種別選択ウインドウを表示します。

図14 回線接続処理ウインドウウインドウ例

モデム通信データ回収

選択地点

モデム通信回線接続処理

回線接続状態

登録電話番号

図15 通信種別処理ウインドウウインドウ例

通信種別選択

回線接続完了後、期間指定10分値回収、最新瞬間値回収の2種類の回収方法を選択できます。
【10分値回収】を選択すると図16の10分値手動回収ウインドウを表示します。

図16 10分値手動回収ウインドウ例



通信開始日、通信終了日選択カレンダーを表示します。開始日カレンダーはロガー収録最旧日にセットされます。終了日カレンダーは最新収録日にセットされます。
 カレンダーの開始、終了日をクリック選択し、回収期間を確定します。確定後、通信開始ボタンを選択すると、回収を開始します。回収中その時刻をウインドウに表示します。
 回収を中断する場合、通信強制終了ボタンを選択して下さい。
 種別選択に戻るボタンを選択すると、図15の種別選択ウインドウに戻ります。
【最新瞬間値回収】を選択すると図17の最新瞬間値ウインドウを表示します。
 毎秒、最新瞬間値データを自動回収し、データを更新・表示します。
 種別選択に戻るボタンを選択すると、図15の種別選択ウインドウに戻ります。

図17 最新瞬間値ウインドウ例



7-4 データ一覧処理

図4のデータ一覧ボタンを選択すると、図18のデータ一覧ウインドウを表示します。第1地点の最新回収日の一覧をグリッド表示します。表示データは回収した生データです。

図18 データ一覧ウインドウ例

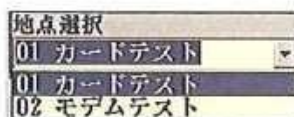
観測時刻/単位	観測地点	平均風向 (度)	平均風速 (m/s)	最大風速 (m/s)	同左時分 (時:分)	同左風向 (度)	同左	10分雨量 (mm)
2003/09/19 00:10	114	S	2.1	5.1	00:10	174	S	0.0
2003/09/19 00:20	117	S	1.7	4.7	00:20	181	S	0.0
2003/09/19 00:30	131	S	1.4	4.0	00:30	207	SSW	0.0
2003/09/19 00:40	132	SSW	2.2	5.5	00:40	210	SSW	0.0
2003/09/19 00:50	132	SSW	2.3	5.9	00:50	215	SSW	0.0
2003/09/19 01:00	135	SSW	1.4	4.1	00:50	189	S	0.0
2003/09/19 01:10	204	SSW	1.8	5.3	01:00	199	SSW	0.0
2003/09/19 01:20	206	SSW	1.3	4.1	01:10	216	WSW	0.0
2003/09/19 01:30	199	SSW	2.0	5.0	01:20	186	S	0.0
2003/09/19 01:40	135	SSW	1.3	4.3	01:30	189	S	0.0
2003/09/19 01:50	201	SSW	1.4	4.0	01:40	207	SSW	0.0
2003/09/19 02:00	194	SSW	1.3	3.1	01:50	200	SSW	0.0
2003/09/19 02:10	201	SSW	1.2	2.7	02:00	189	S	0.0
2003/09/19 02:20	204	SSW	1.4	3.4	02:10	189	SSW	0.0
2003/09/19 02:30	210	S W	1.2	2.5	02:20	215	WSW	0.0
2003/09/19 02:40	210	S W	1.2	2.9	02:30	212	SSW	0.0
2003/09/19 02:50	231	S W	1.1	2.5	02:40	195	SSW	0.0
2003/09/19 03:00	230	S W	1.6	3.1	02:50	225	S W	0.0
2003/09/19 03:10	243	WSW	1.5	3.0	03:00	254	WSW	0.0
2003/09/19 03:20	211	SSW	1.7	4.4	03:10	179	S	0.0
2003/09/19 03:30	219	SSW	1.9	4.9	03:20	246	WSW	0.0

機能詳細

- 【地点選択】システムに登録・回収した地点をコンボボックスで選択できます。
- 【日付変更】日付変更ウインドウのボタン又は年月選択コンボボックス操作により一覧日付の変更ができます。
- 【データ修正】グリッド一覧の日付部をクリックし、その時刻のデータ修正が可能です。

表示地点を変更する場合、地点変更コンボボックスの↓部をクリックし、表示された地点名(図19)を選択します。(グラフ表示、帳票印刷処理においても同様の方法で変更します。)

図19 観測地点変更例



日付変更ウインドウの↓ボタンを選択すると1日前のデータ一覧を表示します。↑ボタンを選択すると1日先のデータ一覧を表示します。最新ボタンを選択すると最新回収日のデータを表示します。カレンダーボタンを選択するとカレンダーを表示します。

図20 年月選択例



年月選択部↓ボタンををクリックすると、その日の処理可能年月一覧を表示します。(図20) 処理年月を選択して下さい。(グラフ表示、帳票印刷処理においても同様の方法で変更します。)

グリッド一覧の日付部をクリックすると、その時刻のデータ修正ウインドウを表示します。(図21)

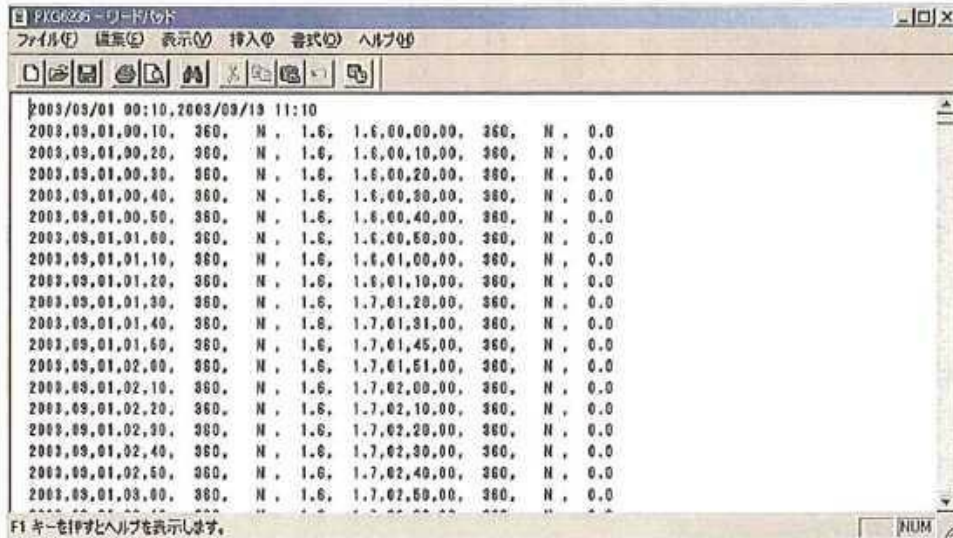
図21 データ修正ウインドウ表示例



データ表示テキストボックスをクリックし数値の修正が可能です。欠測にボタンを選択すると欠測値に置き換えます。修正確定する場合、修正ボタンを選択して下さい。
1日分の修正処理後、ウインドウ上部の修正更新ボタンを選択して下さい。

図18でファイルボタンを選択すると、テキストエディタを自動起動し現在月ファイルを表示します。

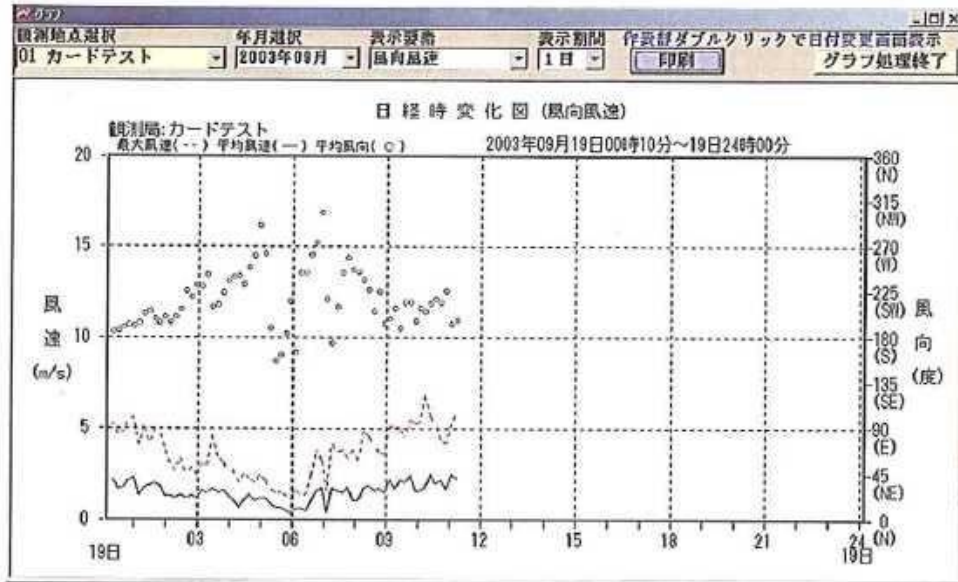
図22 テキストエディタウインドウ表示例



7-5 グラフ処理

図4のグラフボタンを選択すると、図23のグラフ(経時変化図)ウインドウを表示します。初期状態では、第1観測地点の最新編集日の日経時変化図(風向風速)を表示します。

図23 グラフウインドウ例



機能詳細

【地点選択】システムに登録・回収した地点をコンボボックスで選択できます。

【日付変更】年月選択コンボボックス操作又はピクチャーボックス(画面表示部)クリックによりグラフ表示日付の変更ができます。

【表示期間の変更】グラフ表示期間 1日、旬、1月、年の変更ができます。

【表示要素の変更】風向風速、雨量、風配図の表示要素の変更ができます。

【印刷】現在表示画面を印刷します。

本処理ではウインドウ上部のコンボボックス操作(図24)により、表示要素選択し、日グラフ、旬グラフ、月グラフ、年グラフを表示・印刷できます。図26～図35に表示例を示します。

図24 グラフ表示要素選択、期間選択コンボボックス例



グラフ表示画面を左マウスダブルクリックすると、図25の日付変更ウインドウを表示します。

右マウスシングルクリックすると、そのクリック座標にウインドウを移動表示します。←ボタンを選択すると、表示日付を古いほうに進め再表示します。→ボタンを選択すると、新しいほうに進め再表示します。最新を選択すると、最新回収日のデータを表示します。カレンダーを選択すると表示当月のカレンダーを表示します。日付をクリックすると、その日のデータを表示します。×を選択すると、ウインドウを消去します。

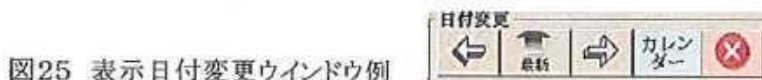


図25 表示日付変更ウインドウ例

図26 日グラフ(風向風速)表示例

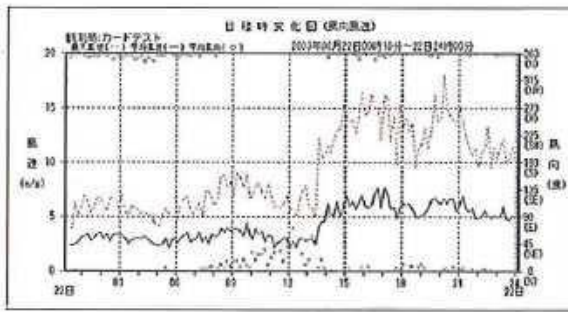


図27 日グラフ(雨量)表示例

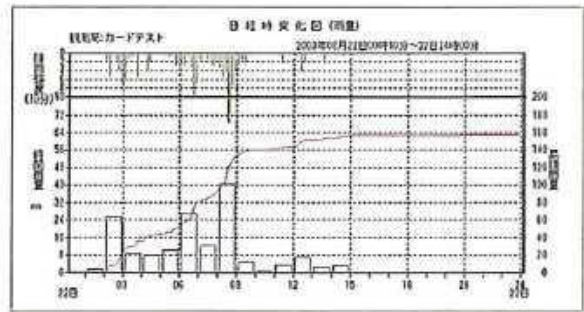


図28 旬グラフ(風向風速)表示例

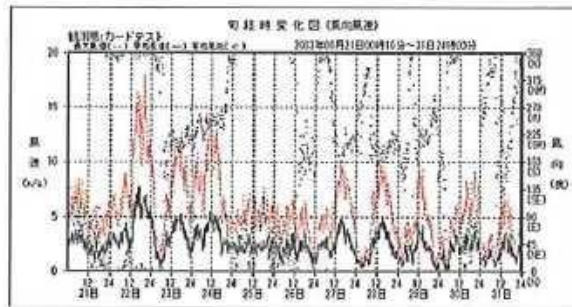


図29 旬グラフ(雨量)表示例

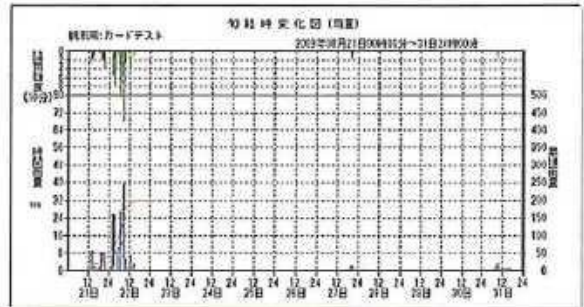


図30 月グラフ(風向風速)表示例

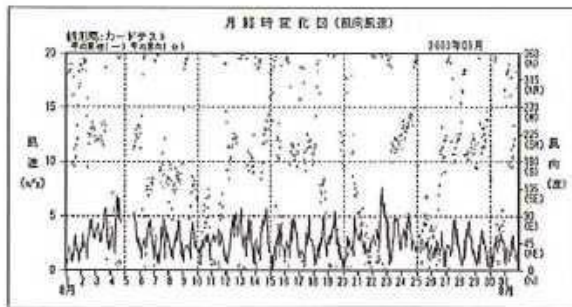


図31 月グラフ(雨量)表示例

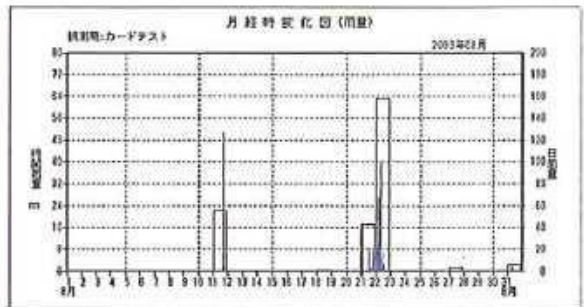


図32 年グラフ(風向風速)表示例

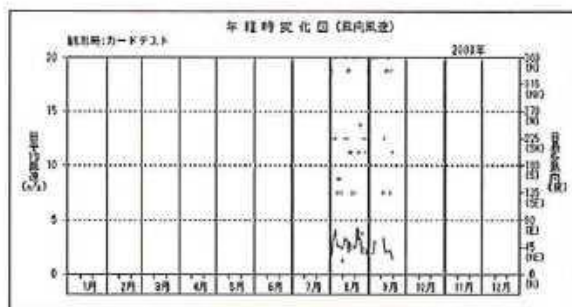


図33 年グラフ(雨量)表示例

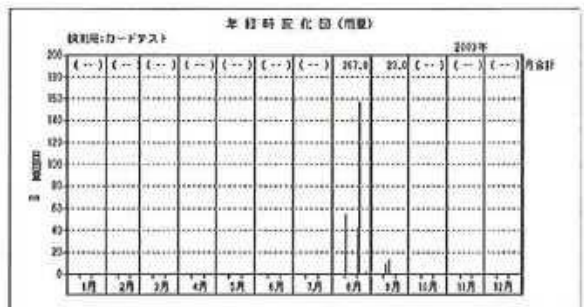


図34 日風配図表示例

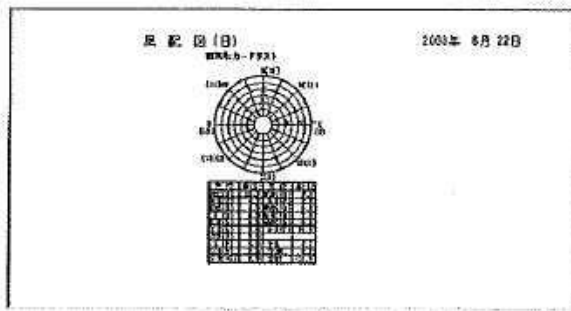
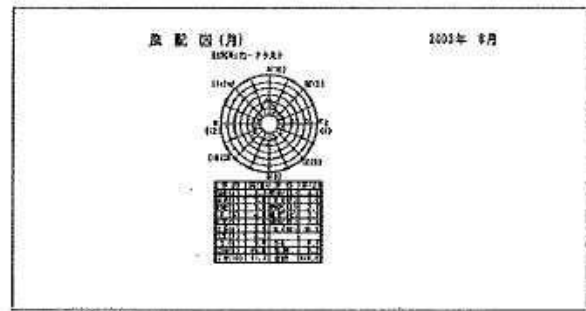


図35 月風配図表示例



7-6 帳票印刷処理

図4の帳票印刷ボタンを選択すると、図36の帳票ウインドウを表示します。
初期状態では、第1観測地点の最新編集日の風向風速(雨量)日報を表示します。

図36 帳票印刷ウインドウ例

帳票印刷ウインドウ										
観測地点選択		年月選択		作表選択		行換替ダブルクリックで日付変更画面表示				
01 カードテスト		2003年09月		風向風速・雨量日報		印刷			帳票終了	
風向・風速・雨量日報										
2003年 09月 19日										
15	カードテスト			観測最大風速						
	15分平均	最大風速	最大雨量	時刻	風向	風速	時刻	風向	雨量	累積雨量
1	南南西	1.4	1.4	01:00	南南西	4.1	01:00	南	0.0	0.0
2	南南西	1.3	1.3	02:00	南南西	3.1	01:59	南南西	0.0	0.0
3	南南西	1.6	1.6	03:00	南南西	3.1	02:59	南南西	0.0	0.0
4	西	1.5	1.1	04:00	西	2.7	03:59	西	0.0	0.0
5	西	1.2	1.2	05:00	西	2.2	04:59	西	0.0	0.0
6	南南東	0.6	0.6	06:00	南南東	1.6	05:59	南南東	0.0	0.0
7	南南東	0.4	0.4	07:00	南南東	1.6	05:58	南南東	0.0	0.0
8	西	1.1	1.1	08:00	西	3.0	07:57	西	0.0	0.0
9	南南西	2.2	2.2	09:00	南南西	5.1	09:57	南	0.0	0.0
10	南南西	1.6	1.6	10:00	南南西	5.3	09:59	南	0.0	0.0
11	南南西	2.5	2.5	11:00	南南西	5.2	10:59	南南西	0.0	0.0
12	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
13	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
14	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
15	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
16	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
17	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
18	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
19	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
20	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
21	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
22	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
23	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
24	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
日平均(計)	南南西	1.4							0.0	
日最大	(観測)	2.5	2.5			5.3				
向風時		1100		11:00	南南西		09:59	南		

機能詳細

【地点選択】システムに登録・回収した地点をコンボボックスで選択できます。
【日付変更】年月選択コンボボックス操作又はピクチャーボックス(画面表示部)クリックにより帳票表示日付の変更ができます。

【作表選択】風向風速・雨量日報、雨量日報、月表の作表ができます。

【印刷】現在表示画面を印刷します。

本処理ではウインドウ上部のコンボボックス操作(図37)により、帳票種別を選択し表示・印刷できます。

図37 帳票種別選択コンボボックス例

作表選択	作表部
風向風速・雨量日報	▼
風向風速・雨量日報	
風向風速	日表
雨量	日表
風向風速・雨量	月表
風向風速	月表
時間別風向風速	月表
時間別雨量	月表

作表選択	作表部
風向風速	日表
風向風速	日表
風向風速	月表
時間別風向風速	月表

雨量観測が無い場合

その他の操作は、7-5の操作と同一で、説明省略します。
図38～図44に表示例を示します。

8 データ収録ファイル

ファイルは月単位で作成し、10分毎に年月日時分、平均風向、平均風速、最大風速・起時・風向、10分雨量のデータがCSVファイル形式(エクセルで加工可)で格納されます。

ファイル名 : Kyyyymm.TXT
 : yyyy = 西暦4桁、mm = 月
 : 例 K200309.TXT 2003年2月のデータファイル

レコード長 : 69バイト

レコード形式 : CSV

レコード数 : 月最大日数 × 24時間 × 6回(10分間隔)

レコードサイズ : (1月の場合) 300kb

アクセス方法 : ランダム、Access Read Write Shared

収録場所 : C:\¥風雨観測データ回収システム¥Dat¥Point01~99

レコードフォーマット(日付管理レコード) 例(第1レコード)

当月収録開始日付 当月採集収録日付

yyyy/mm/dd hh:nn , yyyy/mm/dd hh:nn

レコードフォーマット(データレコード) 例(第2~nレコード)

年	5バイト	2003、
月	3バイト	09、
日	3バイト	01、
時	3バイト	00、
分	3バイト	10、
10分平均風向	6バイト	___340、度
10分平均風向(16方位)	6バイト	___NNW、16方位
10分平均風速	6バイト	_10.5、m/s
最大風速	6バイト	_18.0、m/s

同上起時(時)	3バイト	00、
同上起時(分)	3バイト	05、
同上起時(秒)	3バイト	30、
同上風向(度)	6バイト	___359、度
同上風向(16方位)	6バイト	____N__、16方位
10分雨量	6バイト	___0.5、mm

特記事項

収録ファイルが存在しない場合、観測日付を使用してファイル名を決定し、そのファイルの領域確保、初期化処理を行います。

観測日付はyyyy、mm、01、00、10～yyyy、mmdd、24、00までとし

(ddは当月最終日)、データフィールドは———で初期化します。

2003年9月の例

ファイル名:K200309.TXT

第1レコード:編集日付管理レコード(収録開始、最終収録日付)

2003/09/01 00:10、2003/09/30 24:00

第2レコード:2003年 9月 1日 0時10分のデータ

.

第nレコード:2003年 9月30日24時00分のデータ